

作品 No.231



生きものの“つぶやき”:

「黄色い線の内側までお下がりくださ〜い！」

エッセイ:

「うわっ！びっくりしたー！」このカマキリに出会ったのは、学校の帰り道のこと。フェンスの色と同化して、突然現れたオオカマキリに全く気づきませんでした。カマキリは、私の存在に気付くと体を左右に揺らして威嚇してきます。「私より体が小さいのに、捕食されてしまうかも…」そんな恐怖を感じました。

でも、周囲を見渡すと電車を待つ人の動きに注目しているように見えました。近くにエサとなる生き物が生息している場所ではありません。駅ですから。おそらく、私たちの乗車マナーをチェックしているのでしょう。駆け込み乗車や列の割込む人がいたら、自慢のカマでお仕置きするかもしれません。いつもは怖い存在ですが、この日は私にとって頼もしい存在でした。(309字)

生きものの紹介:

オオカマキリ

緑色または茶色の大きなカマキリ。林縁の草むらや樹上で多く見られ、開けた原っぱにはあまりいない。あらゆる昆虫を強力な鎌足で捕らえて食べる。時には、カエルやトカゲを食べることもある。

撮影場所・日時:

栃木県鹿沼市内の駅構内・2020年8月25日

応募者の自己紹介:

1. 葛西公平／栃木県立栃木農業高等学校2年
2. 所属：陸上部
3. 将来の夢：無人ヘリのオペレーター

審査委員会からのコメント

駅にいるカマキリを駅員さんに見立てるユニークな発想が素晴らしいです。カマキリさん、あなたの方が危ないから引っ込んで、ともいいたくになります。